

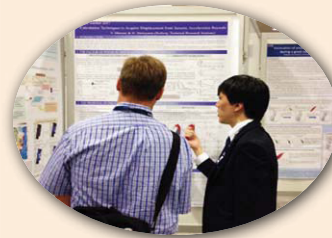
国際会議から

第15回世界地震工学会議

本会議は、International Association for Earthquake Engineering (IAEE) が主催する国際会議で、4年に一度開催され、2012年で15回目の開催となります。85カ国から参加者があり、特に中国、イラン、イタリア、日本、アメリカからの参加者が多かったようです。

扱われるトピックには、工学地震学、津波、地盤地震工学、既設構造物の維持管理等があり、それぞれについて、オーラルセッション、e-ポスターセッション、ポスターセッションでの発表がありました。筆者は、観測された地震波からの変位波形の生成手法についてポスターでの発表を行いました。

各セッションで活発に討論が行われていましたが、特にオーラルセッションでは、それほど狭い部屋でなくとも、立ち見で参加する人が出るくらい盛況でした。東北地方太平洋



本山紘希  
構造物技術研究部  
耐震構造研究室  
研究員

沖地震を受けて初めての開催であったこともあり、ポスターやe-ポスターでは地震や津波に関する報告が多く見られましたが、この点も、本会議の大きな特徴であったと思います。

会場には、地下鉄と市電（路面電車）を乗り継いで行く必要がありましたが、そのおかげで、リスボンの町並みを満喫することができました。



発表会場



リスボン市内を走る市電

正式名称：15th World Conference on Earthquake Engineering  
 開催国：ポルトガル(リスボン)  
 期間：2012/9/24～28  
 主催：International Association for Earthquake Engineering (IAEE)  
 次回開催予定：2016年  
 ホームページURL：http://15wcee.org/